
アビリティー・オブ・ウォーズ

扉。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アビリティー・オブ・ウォーズ

【Nコード】

N3814Z

【作者名】

扉。

【あらすじ】

『人口能力者』『魔術』『絶対的才能』これらを持つ者達は『学園街』と呼ばれる場所へ自然と集まってくる。主人公 灯裂 蒼も能力者の1人だ。ある春休みのこと、1人の少女に出会う。その少女をきっかけに別の 科学では立証できない世界へ足を踏み入れることになった蒼。そして、同時刻、別の場所でもとある誰かが暗躍している……。色々なものが交差するとき物語の針は動いていく!!

プロローグ（前書き）

新連載……というより、作者の初めて書いた作品です。

新しく書いてみました。

パクリと言われるかもしれませんが、違います！！ 参考にしただけです！！

感想などいただけると嬉しいです。

プロローグ

スクールシティ
学園街

この街がそう呼ばれ始めたのは今から数十年前。
とある場所に建設された東京都1つ分の大きさを持つ大きな街。
科学が特化した場所に近代ではありえない者達が数多く存在する。
代表的なのが

『サイエンス
人口能力者』

『オカルト
魔術』

『アブソリュート
絶対的才能』

少数ながら世界に広まっているのが『神に近し者』
神を溺愛し、尊敬し、敬い続ける集団。

そして、もつとも現在 貴重な存在が『イザード
天変能力者』

科学では立証されない『魔術』の次に不明な分野とされている。

『天変能力者』はワールドバンク
世界書庫にも数えるほどしか登録されていない。
それだけ希少で貴重だということだ。

それだけ希少な人を何故、学園街が集めているのかは不明だ。

その概要は極々1部の人間しか知らない。

そう、今から語るのとはそんな何も知らない しかし『天変能力者』

である

1人の少年の物語である。

第1話 とある少年（前書き）

新連載第1話目。

これは1人目の主人公sideです。

後々、別の主人公達が登場します。

まあ、そこまで書けるのやら……。

誤字、脱字、指摘、感想等ございましたらお願いします。

第1話 とある少年

1

少年 灯裂ひびさき 蒼そうは困り果てていた。

理由は明白。

この部屋の汚さから考えられる。

「やば……妹にまかせっきりで俺なんも出来ねえ男になっちゃっ」

そう呟いたのが蒼。

一般的な黒髪に量の多い毛。てっ辺にはアホ毛がびよんぴよんと跳ねている。

平均体重よりも少しやせて見える体型に左手首にはジャラジャラと2つのブレスレットをはめている。

蒼の周りには雑に捨ててあるゴミを見てそう呟いた。

彼は家事は出来るが掃除は出来ないという極めて特殊なタイプの間だ。

いつもなら全部、妹が片付けていつの다가生憎、妹は友達と旅行へ行っていて現在はず不在。

『さあ、片付けますか……』と『蒼は景気よく言いながらゴミを拾うと』

パリンと何かが割れる音が部屋中に響き渡った。

蒼はすぐに現況を確認しに行く

「最悪だ……妹の1番のお気に入りのコップを割るとわ……俺、死亡フラグだったな」

妹の宝物にしていたコップが見事に破損していた。

「落ち着け……落ち着け……って、落ち着つてられるかああ!!
命がかかっている。マジで」

蒼は慌てながらも部屋中のゴミを片づけながら、考える。
そしてある1つの名案にたどり着いた。

「たしか、駅前の雑貨屋さんにあるって言ってたよな……」

それは妹が言っていた言葉。
忘れかけていた言葉だった。

「よし、大体掃除も終わったし今から買いに行きますか」と

蒼はそう言うと、玄関前にある洋服立てから自分のパーカーを持ち
出して玄関を飛び出した。

部屋の中は掃除をする前の方がキレイだったと思われるくらい荒れ
ていた。

2

無事にコップを買い、帰り道の途中で蒼は1人の人物に声を掛けら
れる。

「おっ！！ 久しぶりだな蒼」

「…………… ああ。悠史か。一瞬、変なおっさんが声を掛けたのかと思っただわ」

「どんな反応取ればいいんですか俺は？」

くせ
久瀬 悠史 ゆうし

『スクールンティ―
学園街』に存在する『サイエンス
人口能力者』の1人でその中でも群を抜いて強いと言われている。

いくなれば、『学園街』の中で最強の8人の1人 第4位である。

「あれ以来だから…………… 2週間振りか」

「お前、ちつとも外でねえからな。確実に会わねえんだよ」

「ま、外にでてても面白いことねえからな」

蒼は苦笑を浮かべる。

悠史はそれに続いて話を進めた。

「それより、学校の『課題』^{テーマ}終わらせたか？」

「いや無理、無理。俺は『検査』^{スキャン}に反応しないからどうしようもないんだよ」

「そう言えばそうだったな」

「お前も、お前で苦労してるんだろ。『学園街』 第4位さん」

「お前もな」

悠史は『やべっ！！ 寮の門限がああ！！』と蒼に挨拶を言つと去って行った。

蒼は悠史が見えなくなるまで手を振ると、悠史とは逆方面に向かって歩いて行った。

今日の晩御飯はコンビニで決まりっ！！

そう、呟くと蒼は近くにあったコンビニへと足を踏み入れた。

3

帰り道、片手にコップの入った袋。もう片方の手にはレジ袋が握られていた。

蒼はガジガジとガリガリ君を貪りながら家へと向かう。

現在の日にちは3月26日 午後11時37分。

もう少しで日付が変わる。

春休みも終盤に突入し、新学期の準備もあわただしく始まる。

そんな時期にのうのうとガリガリ君を食べている蒼の足は静かに止まった。

「あれ……………は」

蒼が見た物は路上にうつ伏せで倒れている少女であった。

『うん』と薄れゆく声を出しながら今にも死にそうな感じであった。

蒼はゆっくりと近づいて少女の安否を確認する。

少女は死にそうな表情をしながら、ゆっくりと口を開いた。

「お……………お腹減った」

蒼は隣にあったコンクリートの壁を壊しそうな勢いでぶつかって行った。

その音は鈍器で殴られたようだった。

「いたた……………」

すると、少女からぎゅるるるるると聞いたことないほどの大きな腹の虫が鳴った。

蒼はゆっくりレジ袋を低く下げると『食べる？』と少女に聞いた。

刹那。

気づいた時にはレジ袋の中身と、いうよりレジ袋自体見当たらなかった。

少女はお腹を摩って表情が柔らかくなる。

蒼は安心して立ち上がった。

「君、迷子？」

「ううん。私は逃げ出してきたの」

(逃げ出してきた……………どこかの施設からか?)

蒼がどう聞きかえそうか迷った瞬間。

轟音。

飛行機が離陸する時に鳴り響くジェット機の音のようなものが近辺に響き渡る。

蒼と少女はとっさに耳を塞いだ。

しばらくすると音は止み、2人はゆっくりと手を外す。
少女の手は小刻みに 肩は大きく震えていた。

「速いよ……………」

そう凍えた、真冬の雪山のような震えで呟いた。

蒼はその言葉を聞き、少女に返す。

「速いって、今の爆音は君が関係してるのか？」

「……………今の音は私を連れて帰る為の警告音のようなもの」
「……………警告音」

蒼はそつと呟くと、辺りを見渡す。

この少女にそんな巨大な組織がかかわっているとも思えない。
きつと、ごく少数な人数の反乱と考えている。

しかし、現実とは違かった。

しばらくの静かさの後、再び轟音が鳴り響く。

再び止むと少女の後ろから、コツ……………コツ……………コツと足音が静かに響く。

少女は後ろを向くと全身が震えあがり腰が抜けた様子で地面に倒れこむ。

蒼はゆっくりとコップを地面へ置くと、構えを取った。

そして薄暗い道路の向こう側からやって来たのは

「おやおや、ブレイン。一般人と馴れ合う時間など私達には微塵もないですよ」

「私はもう……あそこには戻らない」

金髪のオールバックで漆黒のスーツを着込んだ青年だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3814z/>

アビリティー・オブ・ウォーズ

2011年12月14日00時53分発行